

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2273200416
法人名	株式会社 スタッフ・アクタガワ
事業所名	スタッフ・アクタガワ グループホーム若草の家 御門台
所在地 (電話番号)	静岡市清水区七ツ新屋2丁目1番28号 電話番号 054-349-6880
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年6月26日

【情報提供票より】(平成 19 年 6 月 12 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	3.17

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(45,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 125 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(平成 19 年 6 月 12 日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81.8 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	土屋内科医院 大野歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームとしての組織体制が確立され、管理者、職員ともサービスの質の向上に努力している姿が随所に見受けられ、地域との関係を重要視し、地域に溶け込んだホームである。
利用者アンケートを年1回実施し、家族の意見、要望を運営面に反映させるなど、利用者・家族との距離感をなるべく縮める努力がされており、ホーム理念である「ともに暮らしともに生きる。」を実践しているホームでもある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はほとんど改善され、特に、地域との関わり合いを重要視している状況がみられた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 年2回本部からの内部監査を受けており、そこで出された要改善項目は取り組みがされている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度の割りで運営推進会議が開催され、そこで出された意見等は、運営・サービスの中に取り入れている。 (例) 非常時用の食事、水の備蓄
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者アンケートを年1回実施してスタッフ会議において議題とし、運営への反映と職員間に共通認識を持たせるようにしている。また、毎月1回「若草の家通信」を発行し、ホームでの暮らしぶりを家族にお知らせしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ふれあい祭りを年2回開催したり、地域行事(お日待ち)には子ども神輿の休憩場所を提供している。近くの散歩、買物などを通じて地域の人達とのふれあいのほかホーム前の道路の掃除も行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ともに暮らし、ともに生きるを基本理念として、地域に根ざしたサービスに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年間目標管理ノートにより、日々の取り組み状況を把握し、毎月1回開催のスタッフ会議で取り上げ、共通認識を持つようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあい祭りを年2回開催して地域との関係作りに努めているほか、お日待ち(地域行事)には子ども神輿の休憩場所として駐車場等を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年2回本部からの業務内容・サービスの対応を主とした内部監査及び県が実施の实地指導監査における改善項目についての取り組みがされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、そこで出された意見等をサービスの中に取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口や保健所には毎月1回は出向き、地域行事やケアサービス等についての情報を得ようとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に近況を伝えているほか、1ヶ月に1回の割りで「若草の家通信」の便りを発行し、家族あてに発送している。また、便りの下部には、担当者からの一筆が添えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会の開催のほか、アンケート調査やホームページで意見、不満、苦情等を収集し、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介助に必要な人員の確保に努めて定着化を図り、職員の交代による利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外を問わず各種研修の参加には積極的に支援しているほか、里親制度やOJTを計画的に実施し、職員の質的向上とサービスの均一化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者交流会へ参加しており、地域でのホームの空き情報を回し、情報の共有化に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が環境に慣れるよう体験入居を実施し、家族との相談の上、二度による入居判定を経て入居させている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者、職員とも利用者との対話を重視した所為が随所に見られた。例えば、調理を一緒に行って利用者から味付けなどの指導を受けている等・・。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族等から生活歴などの情報を収集すると共に、常に利用者の意向の把握に努め、毎月の会議で個人別に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月スタッフ会議の場で、職員から日々の観察や介護日誌、ケース記録等により話し合いを行い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月ごとに見直しをし、短期計画・長期計画を作成している。また、ケア担当制を敷き、得た情報を会議の中で検討して共有化を図り、家族の希望を取り入れるなどして、随時に介護計画の見直しもしている。	○	介護計画を見直したときには、新たに見直しが無い場合においても「変更なし」等の見直し実施結果の記録をされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアセンター内にディサービスの施設を有し、カラオケなど交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院、歯科医院との協力体制は確立している。投薬の関係もあり、2週に1度受診し、家族等の意向により通院介助をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族等、主治医との連携をとり往診を実施し記録をとっているが、個人別のターミナル対策はできていない。	○	重症者から順次、終末期対策を作成されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護のマニュアルがあり、家族等からは「個人情報使用同意書」の提出を受け、情報の管理も個人別ファイルにより家族等以外閲覧できないシステムにしてある。また、失禁等利用者の尊厳を損なわないよう細心の対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「職員が主役でなく、利用者が主役である。」旨をよく理解して利用者の嗜好・希望を把握する努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も共に同じ食事を取り、介助の必要な利用者については隣席でカバーしている。また、現有能力に応じ支度・片付けなど協働している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については時刻等希望に添っているが、週2回となっていて少ない。現在週3回を計画中である。	○	現在週3回のを検討しているようであるが、業務等のやりくりで入浴回数を増やされることを進めていただきたい。また、希望者には、可能な限り毎日の入浴サービスも検討課題として望みたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれが現有能力に応じ生活の中で役割を持っている。元調理師、元農業等、職員を指導する利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域のイベントなどの情報を積極的に収集し、外出を誘引している。また、職員の仕事を調整して、午後は散歩・買物に出かけられる体制づくりに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は利用者・家族等の判断に委ねている。徘徊癖のある利用者については徘徊癖を取り除くため、その原因究明に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルを備え、消防署の協力を得て、年2回独自で防災訓練を実施している。	○	非常時、夜間等夜勤者のみの場合、全員の避難誘導は困難なので、地区の自主防災訓練にも参加し、非常時の応援体制を確立することを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に食事量を把握し、カロリー計算もできている。水分についてはペットボトルにより管理しているが、必要な一部の者にとどまっている。	○	入居者全員の水分量を計られることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階はディサービス施設であり、2階を1ユニットのグループホームにしているため、部屋は明るく、静かで風通しも良く、過ごし易い空間となっている。また、台所が広く、利用者との協力がし易い造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族等にも良く説明してあるため、居室は利用者の希望の什器備品が持ち込まれ、それぞれ个性的である。		